第１回関西観光戦略実行推進会議議事録（要旨）

１　日　時：2026 年 9 月 26 日（土）11:00～12:00

２　場　所：大阪府立国際会議場 3 階 イベントホールＡ

３　出席者：出席者名簿のとおり

４　次　第

（１）開会

（２）議題

①「第 5 次観光立国推進基本計画」「関西あったかプロジェクト」について

②「関西ツーリズムグランドデザイン 2030」について

③ 意見交換

④ ONE 関西インバウンド観光宣言の採択

（３）閉会

５　内　容

（１）開　会

関西観光本部　松本理事長

・本日はご多忙の中、また遠方から、関西観光戦略実行推進会議にご参加いただき感謝申し上げる。日頃より関西観光本部の事業に対して支援、ご協力を賜り心より御礼を申し上げる。

・昨年の大阪・関西万博から 1 年近くが経ち、万博を契機に海外で関西の認知度が高まってきた。このタイミングを絶好の機会と捉え、万博レガシーとして広域観光を推進することにより、インバウンドを関西全体で取り込んで関西の成長を支える柱としていくことが大変重要である。

・関西ではワールドマスターズゲームズの開催や、2030 年の大阪 IR の開業、神戸空港の国際定期便化など、インバウンドをさらに関西に呼び込む絶好の機会が続く。関西観光本部では万博後の関西の観光が目指すべき姿を示すために、今年の 3 月に「関西ツーリズムグランドデザイン 2030」を策定した。グランドデザインでは 2030 年度にインバウンドの観光消費額で日本一を目指すという目標を掲げたが、この目標の実現には観光関係者はもとより、経済界や自治体、関係団体や企業、国の機関等が一丸となって、「ONE 関西」で取り組む必要がある。

・本日はグランドデザインの目標と戦略を共有して、皆様方と共に「ONE 関西」で広域観光を推進する体制を整えるためにお集まりいただいた。グランドデザインの目標実現に向けて、皆様方との連携を深め、広域観光の取り組みを強化してまいりたい。関西観光本部へのご支援、ご協力をより一層お願いするとともに、本会議が関西観光のさらなる発展の第一歩となることを期待する。

（２）議　題

①「第 5 次観光立国推進基本計画」「関西あったかプロジェクト」について

国土交通省　長﨑近畿運輸局長　　※資料 1 により説明

・国全体の観光の基本計画「第 5 次観光立国推進基本計画」（令和 8 年度～令和 12 年度 5 カ年計画）の柱は、「インバウンドの戦略的な誘客・地方への誘客、住民生活の質の確保との両立」

ということでオーバーツーリズム対策をしっかりやっていくこと、そして、戦略産業として日本の魅力・活力を次世代にも引き継いでいくという産業に育てていくという計画を立てている。
・全体の目標値は2030年に訪日外国人旅行者数6,000万人、訪日外国人消費額15兆円が大きな柱。今回のポイントは、オーバーツーリズム対策と地方への誘客というのが大きなテーマであるため、新たな目標として、住民の生活の質の確保に取り組む地域数を100地域に引き上げ、また地方誘客という点でリピーター数4,000万人等、地方への誘客の目標値を定めた。また、観光産業・観光戦略というのは経済対策であるため、宿泊業の付加価値がどうやってその地域に経済的な効果をもたらすかといったことも目標に入れている。
・関西・近畿の取組は、「関西あったかプロジェクト」のキーコンセプト「つながって、触れて、もっと好きになる『あったかKANSAI』」ということで、大阪・京都一極集中を解消し、より地域全体で繋がるということと、地場を理解して、触れて、好きになっていただく、というコンセプトで取り組んでいく。具体的な取組として、広域の周遊コンテンツ充実のため、観光庁の予算をしっかり活用して支援をしていく。また、効果的なプロモーションとして、万博の成果である「KANSAI」の認知度向上に向けた情報発信を行い、マスターズゲームズ、IR、さらには万博の周年事業など、あらゆる機会を使って地方誘客を進めていく。
・広域連携DMOと地方運輸局で地域戦略を議論し、個々の事業ではなく包括的に支援をさせていただくということでやっていきたい。今年度予算は20億円だが、観光庁予算、国際観光旅客税も認められ、来年度は今年度を上回る規模で要求しており、これをしっかりと有効活用していく。

②「関西ツーリズムグランドデザイン2030」について

関西観光本部 加藤代表理事　　※資料２により説明

・関西2府8県のインバウンドの観光消費額は、コロナ後順調に伸び、昨年は2.2兆円となった。一方、全国に占めるシェアはコロナ前と比べて若干下がっている。関西は滞在日数が比較的短い東アジアからの旅行者が多いこと等が背景にあると考えている。
・インバウンドの消費は製品の輸出と同等の効果があり、インバウンドの観光消費額は半導体など電子部品に次ぐ存在となっており、関西経済においても存在感が大きくなっている。
・インバウンドの観光消費額を府県別に見ると大阪府と京都府で関西の9割以上を占めており、この点が関西の特徴であり課題だと考えている。その背景として、関西の地域別に見たインバウンドの延べ宿泊者数は、京都市・大阪市に9割以上が集中、それに伴い消費も大阪・京都への集中に繋がっていると考える。大阪・京都のみならず、大阪・京都以外の関西各地での滞在を促すことで、インバウンド観光消費の増加に繋げていく必要がある。
・インバウンドの宿泊者数の国・地域別に見ると、東京と比べ、関西は滞在日数の比較的短い東アジアからの旅行者の占める割合が大きい一方、欧米豪からの旅行者の割合が小さく、この点がもう一つの関西の特徴・課題。
・関西の認知度はコロナ前と比べて上がっており、これは「大阪・関西万博」という名称の効果が大きかったと考えている。万博が終わった後、この認知度をさらに高めるためにはさらなる努力が必要。

・関西におけるインバウンドの状況に特徴や課題はあるが、万博の開催を契機に、例えば関西国際空港の容量拡大など、関西ではインフラの整備・充実が進んだ。今後も神戸空港の国際定期便化、我が国初となるIRの開業、なにわ筋線の整備など、今後もインフラの整備が予定されており、世界的に見て今後も伸びていくことが見込まれる世界のインバウンド需要を取り込む絶好の機会に恵まれている。
・本年3月に「関西ツーリズムグランドデザイン2030」を策定した。万博をきっかけに認知度が上がったこのタイミングを絶好の機会と捉え、万博レガシーとして「ONE関西」で広域観光を推進することにより、2030年度にインバウンドの観光消費額で日本一を目指す、ことを目標として掲げた。滞在日数や消費額の高さなどの観点から、高い消費が期待できる層へのプロモーションの強化、あるいは広域観光による滞在日数・宿泊数の増加など、4つの戦略を打ち出した。目標の実現に向け、関西観光本部としては皆様方との連携を深め、関西での取り組みを強化していく。我々としてもしっかり汗をかいていくため、皆様方のご支援、ご協力をお願いいたしたい。

③意見交換

滋賀県　三日月知事／関西広域連合長

・「関西観光戦略実行推進会議」という非常に素晴らしい実行部隊が結成されたこと、こういう会議が持てたことを大変心強く思っている。こういったことができるのが関西だなと感じている。ぜひ大阪・関西万博のレガシーとして、松本理事長からご決意のあったインバウンドを中心に関西における広域観光を推進し、皆さんと力を合わせて盛り上げていきたいと考えているところだ。
・来年度、ワールドマスターズゲームズ2027関西が開催され、世界各地からアスリート、応援する人、楽しむ人を関西に呼び寄せ、大阪・京都のみならず関西一円に周遊観光を楽しんでいただく、そういった取り組みを強力に展開していきたい。琵琶湖をお預かりしている滋賀県にもお越しいただけるように努める。
・滋賀県では2027年秋にJRグループと連携いたしましたデスティネーションキャンペーン（DC）を27年ぶりに実施する。来月からプレキャンペーンとしての展開もある。ぜひこういったところにも足を伸ばしていただけるように取り組んでまいりたい。
・いずれにしてもチャンスであるため、チャンスを生かす連携を皆さんと一緒に取っていきたい。

京都府　西脇知事／関西広域連合観光担当委員

・万博で高まった認知度を広域観光に生かすことは万博レガシーの重要な取り組みだ。万博によって生まれた関西への関心や人の流れを一過性のものにすることなく、関西各地への誘客や周遊に繋げていく必要がある。
・京都府では、松本理事長のご提案にご賛同いただいた企業の皆様からの企業版ふるさと納税によるご寄附をいただき、関西観光本部の活動のさらなる充実につなげるための「まるっとじっくり関西プロジェクト」に取り組んでいるところだ。

・ワールドマスターズゲームズは万博後初の大規模な国際イベントであり、万博後の広域周遊観光の試金石となる重要な機会だ。関西広域連合としては、参加の皆様に関西各地を巡っていただくための情報発信に取り組んでおり、開催期間中は海外からの参加者を対象にした周遊モニターツアーなどを実施して、その実証結果を踏まえた旅行商品化など広域周遊モデルの展開につなげていきたいと考えているため、国や関西観光本部の皆様にもぜひご一緒に取り組んでいただきたい。
・住民の皆様に関西という共通のブランドや一体感を感じていただくことも重要だと思っている。本日、鉄道事業者の皆様にもご出席いただいているが、一つのアイデアとして「関西」というヘッドマークをつけた列車やラッピング列車などが各地を走り、地域の魅力を発信・啓発する取り組みがあってもいいのではないか。ご協力をよろしくお願いしたい。
・本日の会議を契機として、「ONE 関西」による広域観光の取り組みをさらに進め、日本全体の訪日観光消費額の 4 割の実現を目指し、関西全体の活性化につなげてまいりたい。

大阪府　吉村知事
・観光の振興に携わる団体のトップの皆さんが一堂に会して、今後の広域観光について、また関西の観光について貴重な意見を交わし、方向性を一にする機会は非常に重要だと思う。松本理事長をはじめ皆様に感謝を申し上げる。
・関西は一つだと思っている。通勤・通学にしてもそれぞれの府県境をまたぐ場合が非常に多くあり、世界から見たら関西のエリアは一つのリージョンだと思う。それぞれ県境や府県境はあるが、観光客の立場からすれば一つのリージョンであり、そのリージョンの境界を超えれば関西の可能性はさらに高まると思う。
・大阪・関西万博は 2,900 万人が来場した。これだけ多くの方が来場し、黒字にもなり、関西の認知度も上がった。やはり関西の可能性というのは非常に高く、そのレガシーを皆で引き継いで、「ONE 関西」としての観光というのは非常に可能性が高いと思う。
・大阪府の取組は大阪市とバラバラにするのをやめようというのが基本的な政治スタンスです。大阪府と大阪市が一つになって、観光戦略も共通の「大阪都市魅力創造戦略 2030」を策定し、国内外から大阪に観光に来ていただける方を増やそうという取組みを大阪市と一緒になって進めているところ。2030 年には大阪のベイエリアに統合型リゾートの IR が開業される。すでに土壌工事が始まっておりこれは確実に開業するということになる。国交省の皆さんにもご協力いただいていることに感謝を申し上げたい。年間 1 兆 1,400 億円の経済効果が見込まれる事業でもあり、最大化していく上でも魅力ある関西の各地を国内外の方に訪問していただく、その訪問していただけるチャンスにもなるため、皆さんと一緒に獲得していきたい。
・インバウンドという意味で大きいのは空港であり、空港は玄関口でもある。関西国際空港の年間発着容量が 23 万回から 30 万回に容量拡張、ターミナル改修も行った。大阪府においては経済界とも協力しながら、新規路線の開設・増便に向けた取り組みを関西エアポートとも協力しながら進めているところでもある。空港というのは海外との玄関口になるため、新たな新規路線の開設・増便に向けた取組みに、是非この場におられる皆様にもご協力をお願いしたい。
・今後のレガシーとして「ONE 関西」で広域観光を進めていくという趣旨は、大阪府としても当然賛成であり、ぜひ皆様と力を合わせて取り組んでいきたい。

奈良県　山下知事

・奈良県の昨今の観光に関する情勢について、令和 6 年の観光入り込み客数は 4,362 万人、コロナ前の令和元年の水準にほぼ回復。訪日外国人観光客数は令和 7 年で 370 万人、この数字は全国で 7 位。関西では大阪、京都に次いで 3 位という状況。統計を取り始めて以来、過去最高の実績となった。延べ宿泊者数も令和 7 年 316 万人、統計を取り始めて以来過去最多。しかしながら、全国 42 位にとどまっている。インバウンドの観光消費額は全国 18 位だが、インバウンドの 1 人当たりの観光消費額は 8,550 円で全国最下位となっている。インバウンドのお客様はたくさん来てくれるが、ほとんど大阪や京都に泊まって奈良は日帰りで来られるため、観光消費額が少ないということ。それだけ多くの方が訪れてくださっているに関わらず宿泊客数が少ないのはホテルが少ないということにも理由がある。ホテルがもっと増えて奈良に泊まってくれるお客様が増えれば、1 人当たりの観光消費額も増えるのではないか。

・今年、「星のや奈良」という旧奈良少年刑務所を改修したホテルがオープンした。来年には、先般世界遺産に登録された「飛鳥・藤原の宮都」のある明日香村に星野リゾートがホテル建設。そして今、近鉄奈良駅前に JR 東海とハイアットが提携するホテルが建設中、それ以外にも建設予定だ。今後さらにホテルが増えていけば宿泊客数も伸びて、そして 1 人当たりの観光消費額も増えていくものと思っている。

・奈良県の特徴として、東アジアのお客様も多いが他地域と比べると欧米豪のお客様が非常に多いという特徴がある。加藤代表理事から大阪・京都に集中している宿泊を分散することが必要であるということと、欧米豪を増やしていくということが必要だというお話があったかが、その 2 つの意味で奈良はまだまだ伸び代があると考えている。

大阪市　横山市長

・本日は大変貴重な機会をいただき、関西観光本部をはじめ関係者の皆様に、心より感謝申し上げる。

・万博レガシーをどのように生かしていくかについては、大阪府や経済界とも議論を進めているところである。資料２にもあるとおり、大阪市に宿泊されている多くの方々を、いかに関西全体につなげていくかが重要であり、関西全体における連携を強化することは、大阪市内での消費額等のさらなる増加にもつながると考えている。大阪市内だけで完結させるのではなく、関西全体へと効果を広げていくことにもしっかりと意識した取組を進めていきたい。

・本市について申し上げると、中之島美術館のフェルメール展が連日大盛況である、ここ中之島周辺では、ナイトクルーズのさらなる充実を予定している。また、メインストリートである御堂筋では、10 月 7 日に予定しているパリ市への訪問の際に、シャンゼリゼ通りとの友好覚書を締結する予定である。さらに、夢洲では 2030 年秋に IR の開業が予定されている。本日、交通関係団体も出席されているが、交通インフラなどの整備も進め、関西全体へと人流を広げていくなど、One 関西での取組みを進めていきたい。

堺市　永藤市長

・事務局よりご報告のあった、第 5 次観光立国推進基本計画では、特定の都市・地域への集中の是正と地方誘客の促進が掲げられており、大変重要な視点と考えている。大阪・関西万博は関西

の各府県や自治体がこれまでとは異なる切り口で魅力を伝え、手応えを得た極めて重要な機会となった。
・今後、一部地域へのオーバーツーリズム改善や誘客を進める上で、大阪・関西万博の経験を生かしてこれまで伝えきれていなかった魅力やインバウンドの観光需要を見つめ直し、それらを活用するためにどう行動するかが重要となる。
・2 点事例を申し上げるが、1 点は茶の湯。現在、世界的な抹茶ブームだが、茶の湯が持つ本質的な要素にはまだ届いていない。大阪・関西万博では迎賓館や各パビリオン、またイベントで連日茶会が催されたが、これは茶の湯の精神性であり、現代の日本人にも大きな影響を与えている「一期一会」や「和敬清寂」などの思いを伝えるものであり、海外の皆様の心にも届いたものと考えている。世界情勢が迷走して不安定な状況だからこそ、茶の湯の精神はますます重要性を増し、特に京都や千利休の出身地である堺を有する関西は大きな役割を果たすことができると考える。
・もう 1 点は世界遺産を通じた魅力発信。世界遺産である百舌鳥・古市古墳群の中心部分の大仙公園で、上空 100m から古墳群を一望できる気球事業を開始して間もなく 1 年が経過する。これまで 5 万人を超える方にご搭乗いただき、体験されたほぼ全ての方から大変ご好評をいただいている。また今年 1 月には新たに飛鳥・藤原の宮都が世界遺産に登録された。日本の始まりとされる地は大切に守り伝えられ、報道等では見所がないようなことも言われているようだが、決してそのようなことはなく、その場所に立つと、今も日本の原風景を感じ、目を閉じた時に風を体で受けると悠久の歴史が思い浮かべられる。
・今、2 点を例としてお伝えしたが、関西には分かりやすさや見た目の華やかさだけではない、奥深い魅力が詰まっており、ここに飛躍の鍵があると考える。関西のさらなる観光振興のために皆様と共に引き続き力を尽くしたい。

関西経済連合会 松本会長

・観光は万博のレガシーであると位置づけている。大阪・関西万博は関西の可能性を世界に印象付けた点でも非常に大きな効果があった。その中でも大阪で開催したということは、関西の特徴を世界中の人が認識し、帰国されているということが非常に重要であり、また日本人にも関西というのは面白いなと、バラエティに富んだカルチャーが関西にあるなということを再認識されたのではないか。
・観光は基本的には輸出。海外からのインバウンドというのは輸出としてカウントされる。この額 2.2 兆円をさらに日本一に、全国 40%のシェアを目指し、「とにかく日本一にならんと話にならん」という事を加藤専務に強く発破をかけている。
・万博のプレゼンスを一過性のものとせずに色々と結実させようということを関経連の中でも議論しており、その実現にはやはりファイナンス・財政の支持というのが非常に重要であることから、関経連を中心に企業版ふるさと納税による寄付を利用し、関西観光本部のアクティビティを支援している。企業版ふるさと納税は、100 のうちの 10%だけ負担するという制度であるため、関西の観光を万博レガシーとして成熟させるために、皆様にも是非このふるさと納税のコンセプトを頭に入れていただき、ご協力をお願いしたい。観光を万博の大きなレガシーとして残してい

かなければいけないということを、18 人いる関経連副会長全員が認識して関西観光本部を大支援している。皆様もよろしくお願いしたい。

関西経済同友会　岡嶋常任幹事

・同友会では本年度新たに「大阪・関西 賑わい創出委員会」を設置した。ここでは、2030 年の IR 開業に向け、夢洲を起点として継続的に人・投資を呼び込む都市の戦略機能として“MICE”に着目すると共に、呼び込んだ人や投資を関西の既存の観光や文化芸術・食などの「賑わい分野」と結びつけることで、関西広域へと波及させる仕組みづくりについて検討を深め、来春には提言を取りまとめる予定。

・昨年度設置した「広域観光推進委員会」、本年度設置した「瀬戸内舟運研究会」において、中国地方・四国地方と関西をつなぐ「世界の瀬戸内」の活用に着目し、インバウンドの量的な拡大を追うだけでなく、スーパーヨットやクルーズを利用する高付加価値旅行者層を呼び込む方向性を磨くことで、地域環境への負荷を抑えながら高い付加価値をもたらす、持続可能な広域観光のあり方も模索しているところだ。このような同友会の活動からも、本日ご報告いただいた内容と理念を同じくするものと考えている。引き続き「ONE 関西」として皆様と取り組んでまいりたい。

関西エアポート 三上代表取締役社長 CEO

・関西国際空港では国際線旅客の約 8 割がインバウンド、その多くが観光目的で関西にお越しになっているため、まさに関西の観光の魅力に支えていただいている空港だ。あらためて観光関係の皆様が長年積み重ねてこられたご尽力、ご努力に感謝を申し上げる。

・本日ご説明いただいたグランドデザインを拝見し、関西が有する世界に誇る観光資源の大きな可能性を実感するとともに、広域での連携、受入環境のさらなる充実ということが非常に重要であると認識した。また、関西のトップの皆様方が、本会議を通じてその認識を共有いただけるということを大変心強く思っている。

・関西エアポートでは、第 1 ターミナルの大規模リノベーション、新たな飛行経路の導入、また 2030 年の国際線定期便に向けた神戸空港の国際化の準備を着実に進めている。私どもとしては、新規路線の開拓も含め、関西のみならず西日本広域にわたる西日本全体のゲートウェイとして最大限活用いただき、交流人口の拡大と域内の観光消費の増大に貢献できるよう、皆様としっかり連携しながらグランドデザインの実現に向けて取り組んでまいりたい。

日本ホテル協会　蔭山会長

・私どもは、ホテルは単なる宿泊施設ではないと考えている。観光産業を支える重要なインフラであると同時に、国際会議や展示会、インセンティブツアーなどを受け入れる MICE 誘致の拠点でもある。近年は外資系ラグジュアリーホテルの進出が進み、富裕層を中心としたインバウンド需要の拡大に寄与しているが、一方で私ども日本のシティホテルも長年にわたり宴会場やレストラン、会議機能を備え、多くの学会や G7、G20 をはじめとする国際会議の開催実績を積み重ねてきた。関西のホテル業界も観光と MICE の両面から地域経済を支えてきたと自負している。関西は昨年の万博の成功により世界的な注目を集めた。さらに 2030 年には IR 開業を控え、なにわ筋

線や高速道路の整備も進み、関西の国際競争力は今後さらに高まるものと期待している。しかし、関西最大の魅力は皆さんご承知の通り、関西各地に息づく歴史、文化、食、自然といった世界的な観光資源だ。私どもホテル業界としても、これからはホテル単体でお客様を呼び込むものではなく、地域の観光資源、交通事業者、DMO の皆様と連携し、関西全体で魅力を発信していくことが重要と考える。関西が一つとなり、それぞれの強みを結びつけることで、万博のレガシーを一過性のものに終わらせることなく、世界に選ばれる観光地域として持続的な成長を実現できると確信している。ホテル協会としましてもその一翼を担ってまいりたい。

日本旅行業協会　森口関西支部長

・本日このように官民一体となり、関西の観光戦略について同じ方向性のもとに共有・確認できることを大変心強く受け止めている。万博レガシーとして関西の存在感は大きくなった。そしてこれからもこのブランドを未来につなげていくために、旅行業界としては特に広域観光の推進が非常に重要と認識している。関西には世界に誇れる魅力がたくさんあるが、点のままでは魅力が分散してしまう。だからこそ、関西全域・その各地の魅力をつないで人の流れを作り、滞在を長くして地域により多くの価値を残していく、こういったことが旅行業界の役割だと考えている。具体的なアクションや目標についても話があったが、各地のコンテンツやテーマツーリズムの開発など、旅行業界としても皆様と力を合わせながら関西全体にこの観光の効果を広げ、世界から選んでいただける関西の実現に向けてその役割を果たしてまいりたい。旅行業界は単に旅行を販売する産業から、旅行・体験を作る産業に変わってきている。人が動いてこそ地域が元気になるため、その循環を関西全体で生み出していくことに全力で取り組んでまいりたい。

関西鉄道協会　井上会長

・関西には各地域それぞれに歴史、文化、自然、食といった素晴らしい観光資源があり、鉄道事業者はそうした地域と地域をつなぐ役割を担っているが、単に人を運ぶ交通手段とは思っていない。関西全体を一つの観光エリアとして捉え、鉄道会社の垣根を超えて鉄道のネットワークを活用した周遊ルートを作り、分かりやすい情報発信を行うとともに、シームレスな企画乗車券、MaaS のようなデジタルサービス、観光施設との連携などを組み合わせていきたい。また、駅についても単なる乗り換えの場所ではなくて、地域の魅力に出会う場所にする。列車に乗った瞬間からその地域の歴史や文化や食、景色を感じていただくことで、移動が目的地への手段ではなく関西を楽しむ「体験」になるものと考えている。万博によって得られたレガシー、関西に行ってみたいという関心を「関西をもう一度訪れたい」「関西の色々な地域を巡りたい」というような継続的な交流に変えていくことが大事であり、その橋渡しを担えるのが鉄道事業者だと考えている。私達鉄道事業者は行政や観光事業者、地域の皆様と力を合わせ、「関西全体が一つの大きな観光目的地」となることを目指して尽力してまいりたい。

西日本旅客鉄道　倉坂代表取締役社長

・万博のレガシーということだが「いのち輝く未来社会のデザイン」ということで、生命科学の分野の発展とともに、リアルな体験価値についての再認識というのが非常に大きなレガシーでは

ないかと思う。リアルな体験価値を提供される様々な組織や人の交流は、まさにこの会議の場のように組織・人の交流が広がっていったことを生かしていくことが大切ではないか。
・私ども交通事業者としては、まずは鉄道を中心とした交通ネットワークの整備・充実を図っていくこと、また、各地域と連携した観光コンテンツを磨き上げていくということ、特に質の高い付加価値の高いコンテンツを提供するように努めることだ。そのためにも、「共創プラットフォーム」と呼んでいる、情報発信、移動手段、それから目的地となる観光施設、各種エンタメ施設等を含めたものを、AI 等を活用して一括して予約ができるような、そういう仕組みをぜひ作り上げていきたい。
・西脇知事のご発言にあったが、鉄道事業者は、万博に関して電車のラッピング等も含めて機運醸成に努めてきたところだ。大きなイベント等に際しては、そのようなことも含めて機運醸成、情報発信を進めてまいりたい。
・観光は平和産業と言われている。日本が平和であり続け、日本に来られる海外の方々が日本で安らぎと感動を感じて帰っていただけるように、国際的な交流を促進し、それが国際平和への架け橋となるようなことを切に願いながら、関係者の皆様と共に取り組んでまいりたい。
・広域観光ということで、関西を起点にして北陸や中国、四国、さらに九州まで、地震や大雨などで苦しんでおられる地域の復興のためにも、広域観光をきっちり進めていきたい。

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会　森事務局長　※参考資料も参照
・ワールドマスターズゲームズ開催まで 230 日となった。来年の 5 月 14 日から 30 日までの 17 日間、関西全域の 9 府県 4 政令市で開催する。参加者は皆が参加できる国際大会で、スポーツに参加して地元との交流、その後は旅行を楽しんでいただきたい。宿泊や移動もすべて自力という大会となるため、観光に大いにつながるのではないか。
・現在の応募状況については、5 万人という目標のうち現在登録済みが 3 万 6,000 人、予定通りであれば 4 万 2,000 人までは見込んでいるがこれから追い込みをかけていく。内訳は国内が 60%、海外が 40%、国別では台湾、香港、オーストラリア、カナダ、そしてシンガポール、ロシア、インド、モンゴルとありとあらゆるところから数百人の単位で来られる。これらの方々に回遊していただきたいため、ぜひ関西全域でお迎えしていただきたい。参加枠はまだまだあるためご参加いただければありがたい。

経済産業省　武田近畿経済産業局長
・関西広域観光を大阪・関西万博の重要なレガシーとして発展させて関西の成長につなげていくというこの方向性に大いに賛同する。この後、ご紹介のある観光宣言に輸出産業としての位置付けというのはすごく重要であり、そういうセンスで観光産業を伸ばしていくという観点が大変重要だ。
・ご出席の松本会長、吉村知事、横山市長、三日月広域連合長と別途万博レガシーで最先端技術の社会実装の話をしているが、万博レガシーの両輪として、社会実装はもちろん重要だが、この関西広域観光というのを盛り上げていきたい。近畿経済産業局としても積極的に観光業界の皆様と接点を持ち、具体的には今年度は観光・交通事業者の方々との実務者とのミーティングを重ねて、年度末にはフォーラムを開催して新たな連携のきっかけを作ってまいりたい。

大阪観光局　溝畑理事長

・我々は観光の DMO としてマーケティングとデータ分析を 10 年以上取り組んできたので、ぜひ関西が連携したデータ分析・マーケティングの体制を、関西観光本部を中心に作っていただきたい。具体的には、例えば各府県をまたぐテーマやストーリーのルートを作っていくこと。あるいは、ラグジュアリー対策を徹底的に進めていくのであれば、各府県の連携が必要なため、ラグジュアリー委員会等の分科会の設置。ナイトタイムエコノミーも大事で、関西の府県全体で浸透させないと周遊は難しい。こういったことを、関西観光本部を中心に府県の関係者全員を組み込んだ体制を作り、定期的に情報開示して記者会見を通じて発表していく。こういう仕組みを 2030 年まで続けていくのが大事であり、私どもも全身全霊かけて協力する。

・関西はスポーツが売り。野球、Ｊリーグ、バレーボール、バスケットなどプロチームが集積している。また来年開催する関西マスターズゲームズに自分も野球でチームを作って出場するが、関西のチームに「ONE 関西」というロゴをつけてプレーしてもらうことも一案だ。スポーツを活用してここにいる全関係者が一つの関西を真剣に発信していくという姿勢が大事だ。

④ONE 関西インバウンド観光宣言の採択

関西観光本部 加藤代表理事

（「ONE 関西インバウンド観光宣言」（資料３）を読み上げ）

（会場より「異議なし」の声）

関西観光本部 加藤代表理事

・原案の通り「ONE 関西インバウンド観光宣言」を採択させていただく。

（３）閉　会

関西観光本部　松本理事長

・本日は大変お忙しい中、関西観光戦略実行推進会議にご参加いただき心より御礼申し上げる。これだけの関係者が一堂に会することは滅多になく、今回皆様のご協力によって実現できた。

・ONE 関西インバウンド観光宣言について、熱い気持ちでどんどん進めていこうという気持ちを持っている。

・本会議については１年に１回結果報告も含めて開催したらどうかと私自身思っている。本日皆様からいただいた色々なご意見については、実務者クラスの会議「関西広域連携観光戦略会議」において、しっかりとフォローし、その結果を年に１回のこの大会議において「結果が出ているのか出ていないのか、出ていないのはなぜなのか」という議論をしていただきたい。

・本日は本当に皆様の貴重なお時間をいただいた。この結果を生かすべく我々は全力を尽くして頑張るためよろしくお願い申し上げる。

以上